



西尾いきものふれあいの里だより

3月号

2025.3.1 発行

さとやま

3月の里といきもの



今年の2月は、長期予報に反して予想外の寒気の流入があり、「10年に1度の低温」という状態になりました。地球が温暖化しているのになぜと思うかもしれませんが、北極の寒気の塊が温暖化により分裂し日本に押し寄せたので、気温が急激に低下し、冬型の気圧配置が強まったのです。温暖化といえども、短期的な寒冷な天候はこれからも繰り返されることがあるということです。

しかし長期予報によると、3月は全国的に気温が高めの傾向にある見込みです。特に北海道から近畿地方では、平年よりも気温が高くなる可能性が高いとされています。今月こそ春の訪れが早く、桜の開花も順調に進むかもしれません。

田んぼエリアで、**ミツバツチグリ**の黄色い花を見かけます。バラ科に分類される多年草で、3月中旬頃、田んぼエリアで咲き始めます。近縁の根が食べられるツチグリという植物に似ているので名が付きました。花は、同じバラ科の**ヘビイチゴ**とよく似ています。





ミツバツチグリ



ヘビイチゴ



ヘビイチゴの方が花弁と花弁の間隙間が比較的大きく、花弁よりも大きい副がく片があります。花が終わると、ヘビイチゴは中央の花床が発達し、苺になります。ミツバツチグリは苺ができません。3枚の小葉は、ミツバツチグリの方が細長く、ヘビイチゴはひし形なので見分けることができます。ヘビイチゴはミツバツチグリの花が終わっても、しばらく咲き続けます。

ちなみにツチグリも花が似ていますが、小葉の数が多く、葉の裏に白い毛が密生するそうです、里では見られません。

3月にはこんな生きものも見られます

センター前では、**サンシュユ**の黄色い花が咲きます。ミズキ科に分類される落葉小高木で、庭木としても人気があり、公園や街路樹としても植えられています。秋には食べられる赤い実がなるそうですが、里ではあまり実りません。

ビオトープ上の池や田んぼエリアの農機具小屋の近くでは、**キランソウ**の青い花が見られます。シソ科に分類される多年草で、草全体が地表に這って、円盤状の形になることから、「地獄の釜の蓋」という別名があります。

センターの室外機付近などでは、**ふきのとう**が顔を出していることがあります。ふきのとうは、キク科に分類される多年草の**フキ**の花芽です。雌雄異株で、成長すると茎（とう）が立って、1つのふきのとうに雄花か雌花のタンポポのような集合花がいくつか集まって咲きます。天ぷらなどとして食べられるふきのとうですが、写真のようになると硬くて食べられません。



サンシュユ



キランソウ



ふきのとう

サクラが咲き始める頃、田んぼエリアの休憩所の近くで、**ヒメウズ**のかわいい花が見つかります。名前は小さな烏頭（トリカブト）という意味です。葉が似ていることから名が付けられました。キンポウゲ科に分類される多年草です。トリカブトも属するキンポウゲ科の植物は、毒のある種類が多く、ヒメウズも汁が体に触れるとかぶれることがあります。

ショウジョウバカマの小径やトンボの里の流れの岸には、**ショウジョウバカマ**の花が咲きます。花を中国の伝説上の動物「猩猩」（しょうじょう）の頭に、葉を袴に見立てて名がつけられました。

その近くや、トンボの里へ向かう川沿いの湿った場所には、種子の付き方が猫の目のように見える**ヤマネコノメソウ**が群生しています。



杉林やトンボの里、万灯山エリアでは、ツバキ科に分類される**ヒサカキ**やアオキ科に分類される**アオキ**の花が咲きます。どちらも雌雄異株で、雄株に雄しべが発達した雄花、雌株に雌しべが発達した雌花がつけます。雄花の方が先に咲くことが多いです。ヒサカキには中間型の花も見られます。

お天気の良い日には、ビオトープ上の池や、小草池などで、カメたちが「甲羅干し」している姿が見られます。写真は外来種の**ミシシッピアカミミガメ**ですが、里には在来種の**イシガメ**や江戸～明治時代に移入されたと思われる**クサガメ**、外来種と在来種が混在する**スッポン**が生息しています。寒いときは変温動物のカメたちは、日光に当たることで体を温めて活動します。



前回ご紹介した長円寺のオガタマノキの横や、万灯山のロータリー付近には、サクラより少し前に愛知県の木であるムクロジ科の**ハナノキ**が花をつけます。

万灯山の山頂付近には、サクラが咲くころツツジ科の**コバノミツバツツジ**が咲きます。他のツツジと違い、葉より先に花をつけるので、薄ピンク色が煙ったように美しく見えます。

山道の足元には、スミレ科の花たちが見られます。写真の**フモトスミレ**は比較的花期が短いので、ぜひ探してみてください。

暖かくなり、一気に活動を始めたいきものたちを探して、里を散策してみてください。

2月の行事紹介



「竹炭を作って飾ろう」の講座を2月8日、9日、16日の3日間の開催計画でしたが、8日は大寒波の到来により、里も雪が降る状況で講座を延期し、翌日の9日から竹炭づくりを始め、11日に窯炊きに変更して行いました。

1日目は、トンボの里の竹林の竹を間引き、炭焼小屋まで運び、炭焼窯に入れる長さに竹を切り、竹を割り、節を取り、窯の中にきれいに詰めました。

2日目は、窯に火を入れ、火を絶やさないよう窯の火を見張って、約6時間で焼きました。この作業の間には、切ってきた竹で箸などを作りました。

3日目は、出来栄を気にしながらの窯出しです。炭焼窯の火の近くと遠くでは、窯の中の温度差により、竹炭の出来栄が違いますが、窯の中を工夫して行い、出来の良い竹炭が多くでき、参加者で分けて持ち帰りました。

4月の行事予定



6日(日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅠ ※注1	30名	AM9:30~11:30	当園職員
13日(日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅡ ※注1	30名		

内容：里の竹林整備・環境学習の一環として、トンボの里の竹林でタケノコ掘りを体験します。竹林整備の仕方、タケノコの生え方などを教えてもらい、実際にバチ鍬(くわ)を使って採り方を学びます。

「※注1」の講座は3月16日から受付しますが、両日への申込みはできません。

20日(日)	春の生きものを探して 里山を散策しよう	20名	AM9:30~11:30	高須桂子
--------	------------------------	-----	--------------	------

内容：生きものがあふれる季節

里山で春の七草をはじめとした花や昆虫、鳥などを探して歩きましょう

- ◇ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下の場合**は開講しません。
- ◇ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ 当日の天候により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、参加費は無料ですが、講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課